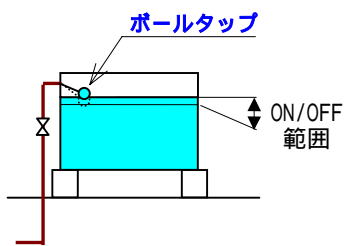
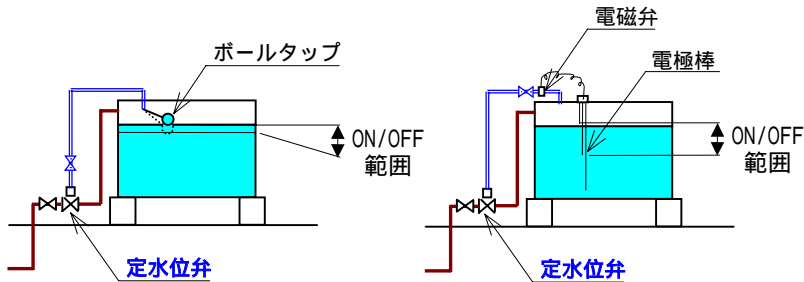


# 受水槽への給水方式の分類

## (1) ボールタップ〔BT〕方式



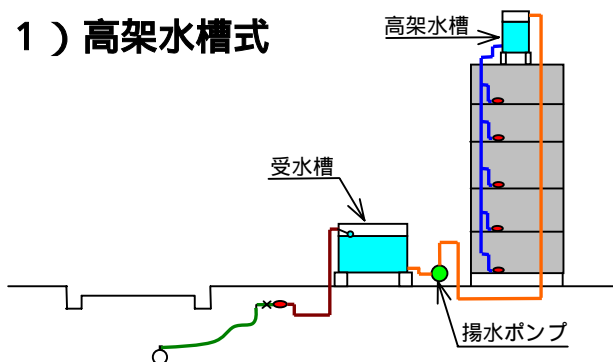
## (2) 定水位弁〔FM〕方式



<p>水面に浮く『玉』が、水位の低下と共に下降し、<b>ボールタップ</b>の吐水口が開き吐水する。又、水位の上昇と共に『玉』も上昇し、吐水口が閉じ吐水を停止する。(参:ミルのタカ)</p>	<p>水面に浮く『玉』にて<b>ボールタップ</b>の吐水口を開閉させ、その開閉と連動させて<b>定水位弁</b>も開閉させ、吐水・止水を繰返させる。(ボールタップの ON/OFF にて<b>定水位弁</b>が ON/OFF)</p>	<p>水位を電極棒にて感知し、『<b>電磁弁</b>』を開閉させ、その開閉と連動させて<b>定水位弁</b>も開閉させ、吐水・止水を繰返させる。(電磁弁の ON/OFF にて<b>定水位弁</b>が ON/OFF)</p>
<p>の『玉』の上下に即、連動して吐水口が開閉されるため、<b>受水槽への給水頻度は多い。</b></p>	<p><b>定水位弁</b>の開閉の信号を送る(パイロット)のが<b>ボールタップ</b>であるため、<b>受水槽への給水頻度は多い。</b></p>	<p><b>定水位弁</b>の開閉の信号を送る(パイロット)のが<b>電極棒</b>であるため、その棒の長短により<b>開閉頻度</b>の調整が可能であり、<b>ボールタップ</b>と比較すると、<b>受水槽への給水頻度は少ない。</b></p>

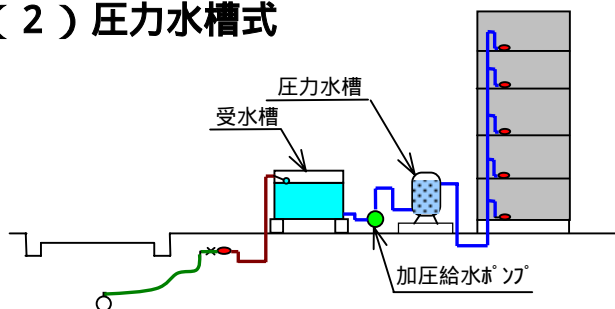
# 受水槽式における給水方式の分類

## (1) 高架水槽式



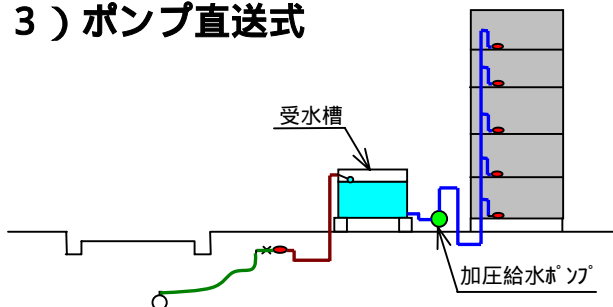
受水槽の水を揚水ポンプにて高架水槽に揚げる。  
〔高架水槽に設置された電極棒にて揚水ポンプの ON・OFF を行う。〕  
水は、高架水槽から自然落下にて下階のメーターを通過して、各種給水栓より出る。

## (2) 圧力水槽式



受水槽の水を加圧給水ポンプにて圧力水槽に圧送する。  
〔圧力水槽上部に設置された圧力センサーにて加圧給水ポンプの ON・OFF を行う。〕  
水は、圧力水槽にて加圧され導水管内を經由し、上階のメーターを通過して、各種給水栓より出る。

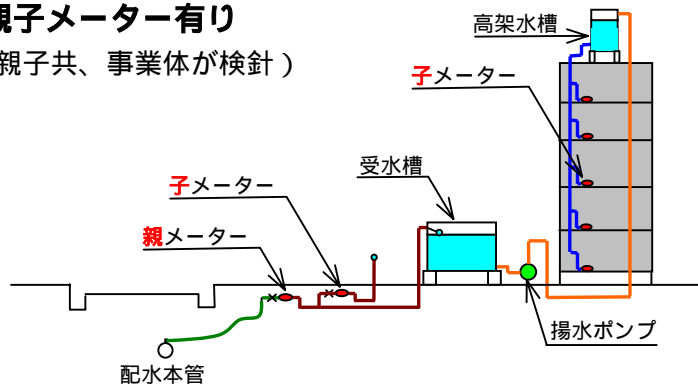
## (3) ポンプ直送式



受水槽の水を加圧給水ポンプにて圧送する。  
〔加圧給水ポンプユニットに設置された圧力センサーにて加圧給水ポンプの ON・OFF を行う。〕  
水は、加圧給水ポンプユニットにて加圧され導水管内を經由し、上階のメーターを通過して各種給水栓より出る。

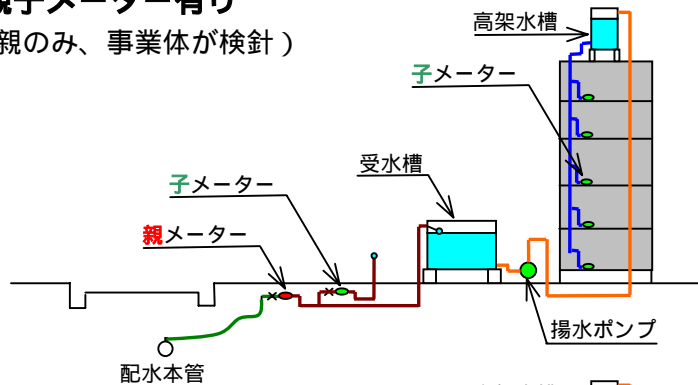
# 親子メーター / 検針業務の有無による分類

## 1. 親子メーター有り (親子共、事業者が検針)

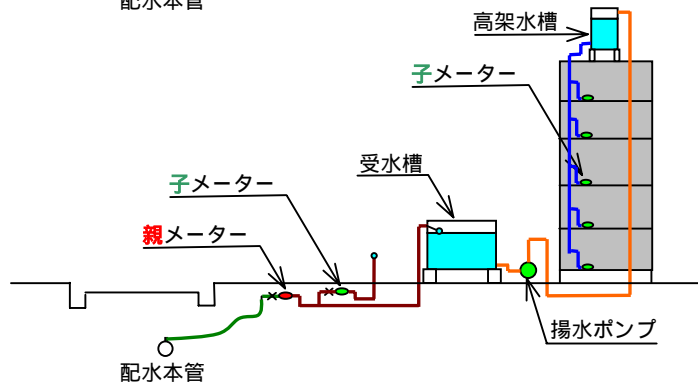


事業者にて親メーター・子メーターとも検針するから、親の値と子メーターの集計値の『差』が算出でき、親メーター以降の地中埋設管や建物内での漏水等の早期発見や、水槽清掃水等の有収化が計れる。但し、検針 / 集金業務は増加する。(集合住宅等)

## 2. 親子メーター有り (親のみ、事業者が検針)

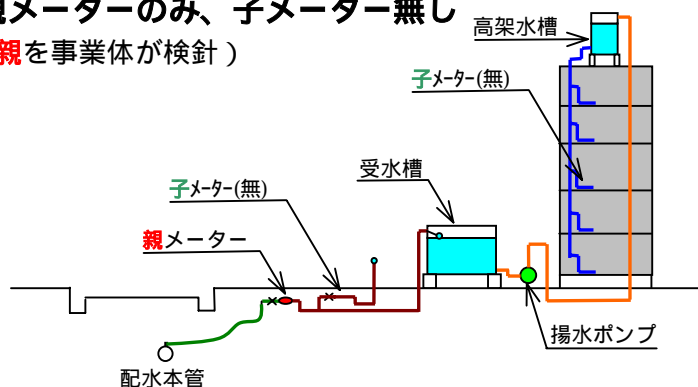


事業者にて親メーターのみ検針する。この場合、親の値と子メーターの集計値の『差』が算出できず、親メーター以降の地中埋設管や建物内での漏水等の早期発見が『親子差』ではできない。又、水槽清掃水等の有収量も通常使用水の一部(供用)として計られ、検針 / 集金業務も『1箇所』となる。(集合住宅等)



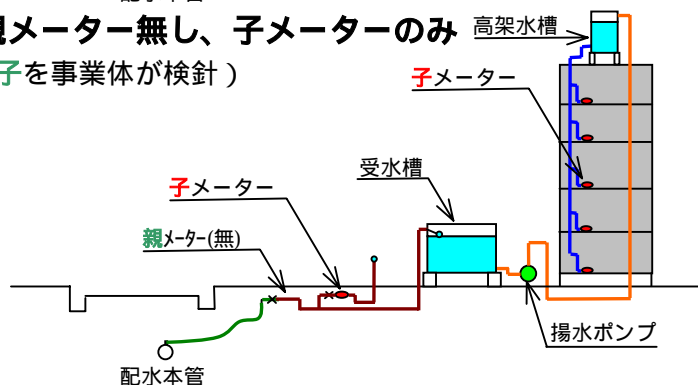
事業者にて親メーターのみ検針する。又、本例における子メーターは、ビル管理用の自己メーターである場合が多い。(賃貸事務所ビル等)

## 3. 親メーターのみ、子メーター無し (親を事業者が検針)



事業者にて親メーターのみ検針する。但し、水槽清掃水等の有収量は、ビルの総使用量の一部として親メーターにて算出できる。  
(自社事務所ビル等)

## 4. 親メーター無し、子メーターのみ (子を事業者が検針)



事業者にて子メーターのみ検針するから、『親子差』が算出できず、給水引込み管以降の地中埋設管や建物内での漏水等の早期発見が『親子差』ではできない。但し、水槽清掃水等の有収量は、水槽清掃用の直圧の給水栓への子メーターにて算出できる。(集合住宅等)